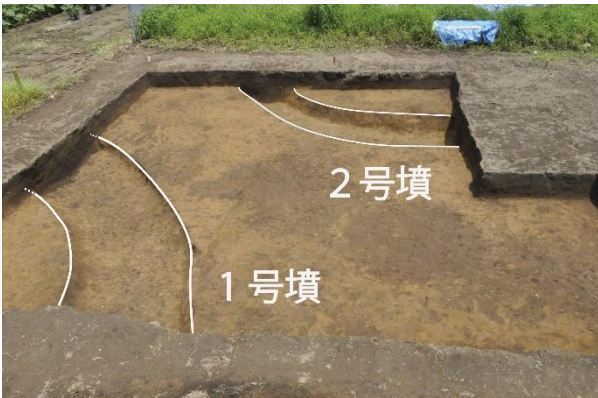


石室の一部が出土か？（社前遺跡第6次調査）

令和3年7月12日（月）～7月16日（金）までの間、社前（やしろまえ）遺跡第6次発掘調査を行いました。



調査区全景



発掘調査の様子

社前遺跡は深谷市原郷に所在しています。過去の調査では、古墳の周溝（しゅうこう）や奈良・平安時代の竪穴住居跡などが確認されています。

今回の調査では、古墳の周溝が2基発見されました。どちらも墳丘は削平により消滅しています。しかしながら、1号墳の端からは集石が確認されており、その位置や堆積状況からみて、横穴式石室（よこあなしきせきしつ）※を構成する石材、中でも大きな石を背後から支えていた裏込め（うらごめ）と呼ばれる小ぶりの石材であった可能性があります。

また、2号墳の周溝の中からは小さな埴輪片が数点出土しました。これまでに確認されている古墳と同様、1・2号墳は古墳時代後期（約1500年前）に築造されたものと考えられます。

※横穴式石室・・・古墳内部に設けられた遺骸を埋葬する施設。竪穴式石室とは異なり、古墳の側面から遺骸の埋葬が可能であった。



1号墳 集石出土状況



2号墳 埴輪出土状況